

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。

HISTORY No.3

浅間焼け

2009年2月2日、2時8分、噴火の衝撃でカメラが揺れて星がふれています。

【撮影】

小山 悦郎 氏



小諸では、浅間山の噴火のことを「浅間焼け」と呼んできました。

「浅間焼け」のなかで、特に大きな被害をもたらしたのが、天明3年（1783年）の江戸時代でした。平原や塩野、八満などでは人々が逃げて、人っ子一人いなくなってしまうという記録が残されています。影響は天明7年まで続き、上空に飛ばされた灰により太陽の光が十分に届かなくなり作物が実らない凶作が続きました。



浅間焼けの図
【所蔵】
美齊津洋夫氏

約1万5800年前、浅間山の大量噴火で、たくさんの火砕流が流れました。「浅間軽石流」と呼ばれています。懐古園もその火砕流によって作られた土地の上にあります。

それらの地形は、後に川や水で削り取られて「田切」と言われる地形に。

私たちが生活している土地は浅間連峰の噴火活動の中でできあがったものです。



▶田切に見える
泥流のあと



小諸学
KOMORO GAKU

超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O

H I S T O R Y

歴史の

なかに、

未来の

ひみつが

横た

わっている